

# 洛東の丘

～校長室から 洛東生の皆さんへ～  
令和2年7月31日(金)第14号

前人未到(ゼンジンミトウ)  
以前に誰も到達していない場所、  
境地や記録

## ♠短い夏休みを有意義に！♠

明日から夏休みです。しかし2週間あまりと、これまで一番短い休みとなります。この限られた時間がどれだけ有意義なものにできるのかは、各自の心がけ次第です。

皆さん、計画はすでにできていますか？そもそも、手帳やスケジュール表などを持っていますか？もし、持っていないという人には、是非この機会に持つことをオススメします。

予定や取り組まなければならないことを、1週間単位、1ヶ月や3ヶ月で整理し、何ができて、何ができていないのかを紙の上で明確にしてみてください。きっと今までとは違ったものが見えてきます。

目標を達成した人や夢を実現した人達に共通していることがあると言います。それはいつも言っている「本を読む」ということ。そしてもう一つは、目標や夢、そしてその経過や到達状況を常に「紙に書く」ということです。短い夏休みを有意義につかう為に、是非スケジュール管理を始め、それを習慣にしてください。



7月17日(金)期末考査終了後、各部活動の代表者の皆さんを対象に、消防の方々による救急救命講習が行われました。みんな、熱心に講義に耳を傾け、実習に励んでくれました。

甲子園予選の代替大会に臨んでいる野球部は、1、2、3回戦を突破し、明日、7ブロック決勝で同志社高校に挑みます。普段通りの野球で頑張れ！！  
(新型コロナウイルス感染拡大防止のため、友人等の応援は禁止されています。)



頭の体操 は、休みます。

## ある特攻隊員のお話

日本海軍は1941年12月8日、アメリカ軍太平洋艦隊の基地、ハワイ・オアフ島の真珠湾を攻撃し、これを機に大東亜戦争が始まりました。そもそも物量に勝るアメリカに勝てるわけがないこの戦争において、時が進むにつれ当然のごとく戦局は悪化する一方でした。日本軍は戦局打開を図るため、特攻作戦を展開することになりました。陸軍では、空母などアメリカ軍艦船に体当たりする「航空特別攻撃隊」をはじめ、敵飛行場に着陸した後、誘導路を疾走し、敵の飛行機の胴体に爆薬を投げ上げたり、装着したりして爆破する「空挺隊」や、爆雷を装着した戦車でアメリカ軍戦車に体当たりして撃破する「戦車隊」、爆雷を装着したベニヤ板製のモーターボート（し艇）で敵艦に体当たりして撃破する「海上挺進戦隊」がそれぞれ編成され、フィリピン島や沖縄での戦闘に参戦しました。

特攻隊は、今の高校生くらいの年齢の男子が対象となり、「志願」せざるを得ない「強制」であったと私は考えます。

「日本は正に危機である。この危機を救える者は大臣でも大将でも軍司令部でもない。もちろん、自分のような長官でもない。それは諸君のような純真にして気力に満ちた若い人々のみである。再び還らぬ戦法である。従って決死の覚悟で臨まねばならん。この作戦に希望する者はいないか。よく考えて申し出よ。」

30分の猶予を与えられた後、ある隊は紙を配られ三択。その三つは

1 熱烈望 2 熱望 3 希望 ……結局どれも参加ということです。

また、ある隊は・・・

「志願する者は一步前へ！」 次の瞬間、ザッという音と共に全員が前へ出たと言います。いずれも、志願以外の道を選ぶ状況ではなかったと思います。そして「長官」達は生き残るのです。

そんな中、藤井一中尉という陸軍飛行学校で少年兵の精神教育を受け持つ先生がおられました。戦地へ送り出した教え子達の戦死を耳にするたびに「おまえたちだけを死なせはしない。中隊長も必ず行く」と口癖のように言っていました。教え子達を特攻に行かせて、自分は安全な後方にいる現実に、教育者として自責の念を感じていたのでしょうか。藤井中尉は、自ら特攻を志願しました。しかし、藤井中尉は年齢的に若くなく、しかも妻と二人の子供がいたので志願は叶えられませんでした。その後も血書・嘆願書などを出しても、志願しては却下がくり返されますが、藤井中尉の決意は変わりませんでした。

夫の固い決意を知った妻の福子さんは、「私達がいたのでは、後顧の憂いになり、思う存分の活躍ができないでしょう。一足お先に逝って待っています。」という遺書を残し、長女の一子ちゃんと次女の千恵子ちゃんに晴れ着を着せ、飛行学校の近くを流れる厳寒の荒川に身を投げました。急報を聞いて現場に駆けつけた藤井中尉は、妻子の死を無駄にすまいと再度嘆願。軍も事情を考慮して、ついに藤井中尉の特攻志願を受理します。

妻子の入水自殺から五ヶ月後の1945年5月28日、藤井中尉は特別攻撃隊として出撃。藤井中尉の遺言通り、一家は筑波山を望む郷里の小高い丘のうえに眠っています。

鹿児島県の知覧という町に「知覧特攻平和会館」があります。館内には、陸軍特別攻撃隊員の遺影や遺品、記録など貴重な資料をはじめ、多くの特攻隊に関連した往時の備品が展示されています。また、同じく鹿児島の南さつま市にも「万世特攻平和祈念館」があります。

陸軍特別攻撃隊の真実 只一筋に征く (ザ・メディアジョン) より引用